日刊工業新聞

年月日	21	06	30	ページ	16	NO.	

工賃・品質、全国一律に

ビレッジハウス 修繕見積書 電子化

ビレッジハウス・マネジメント（東京都港区）は10月をめどに、修繕工事に必要な見積書を電子化する。同社は賃貸住宅管理・運営を手がけ、全国で1000社の地場工務店と取引がある。従来はファックスなど紙で見積書をやりとりしていたが、今後はエクセルに金額を入力して電子メールで送る方式に改める。同じカギ交換でも工務店ごとに品質や価格が異なる課題があった。電子化で見積書を比較できるようにし、全国一律の価格と品質を実現する。

ビレッジハウスは公的機関から購入した住宅を建て替えずに既存のままリノベーション・修繕し、低賃料で提供するのが特徴。47都道府県に1066物件を運営・管理し、これまでは地域の工務店ごとに修繕費の見積書を紙でやりとりし、管理の手間とコスト・品質のバラつきが課題となっていた。

▲ビレッジハウスが運営・管理する賃貸住宅

今後は親会社の米投資ファンド、フォートレス・インベストメント・グループ関連のIT部隊とも連携しながら、独自のシステムを構築し、エクセルで得た見積書をITで一元管理する。これにより、壁紙交換やカギ交換など工事ごとの価格を横並びで比較でき、「全国で統一した価格と品質を実現できる」（工藤健亮共同最高経営責任者）と見る。

建設・不動産業界は紙ベースの取引が主流で、IT化による業務効率の向上が課題になっている。ビレッジハウスは入居者との賃貸借契約を電子署名方式でIT化するなどデジタル変革（DX）を推進している。今回の取り組みもDXの一環だ。

同社は2016年設立の賃貸住宅管理・運営会社。

無断転載・複写禁止㈱日刊工業新聞社